

日々の田高（理数研究拠点校 観音崎 磯のフィールドワーク）

9月14日(月)、ぼろにあ祭振替休日を利用し、理数研究拠点校の活動として神奈川県横須賀市観音崎で磯のフィールドワーク(生物採集・観察)を実施しました。

今回のフィールドワークの目的は、生物の教科書で学習する様々な動物門を実際に観察することです。この地球上には、様々な動物門に分類される動物が存在しています。しかし、実際に様々な動物門の生物を一度に観察する機会や場所は限られており、どうしても教科書だけの知識になってしまいがちです。

そこで、多様な生物が生息する磯という環境に注目し、どのくらいの種類の動物門の生物が採集・観察できるかを、1～3年生の希望生徒20名が参加し、調査することになりました。



博物館内を真剣に見学。生きた生物もたくさん展示され、興味津々



海を見ながらの昼食

当日は天候にも恵まれ晴天のもと、磯の生物観察に最適な環境の中で活動を行うことができました。

はじめに、観音崎自然博物館を見学し、学芸員や東京都立大学、東京海洋大学の学生ボランティアの方から展示内容について説明を受けました。館内には、観音崎周辺に生息する海辺の生物に関する展示のほか、公害が魚類に与える影響や海洋プラスチックをはじめとする漂着ごみの問題について学ぶことができる展示があり、生徒たちは熱心に見学していました。

その後、博物館の浦賀水道が一望できる庭で、海を見ながら昼食をとりました。昼食後は、学芸員の方から磯採集を行う際の注意点や、毒をもつ生物など危険な生物について説明を受け、安全に活動するための知識を学びました。干潮時間に合わせて、採集に適した服装に着替え、採集に向けて磯への移動を開始しました。



博物館から歩いてすぐの磯へ向けて移動中



磯に到着

磯に到着後、博物館の学芸員の方から、磯の特徴と安全に採集・観察ができる範囲を示して頂き、採集・観察を開始しました。最初は、慎重に岩場を観察していた生徒達でしたが、さっそく、足元にアメフラシを発見。その後は、積極的に潮だまりや岩の隙間などを、生物がいないか探しました。



アメフラシ



採集の様子



カイメンなどが付着した岩



岩場にびっしりとついたフジツボ



イソギンチャクのいる潮だまり



山川学芸員による解説



アオウミウシ



ウミウシのなかま



磯で採集した魚類

岩には、カイメン(海綿動物門)や貝類(軟体動物門)、イソギンチャク(刺胞動物門)、海藻など、様々な生物がびっしり張り付いていて、磯の豊富な生物に生徒達は驚いていました。学生ボランティアの方に、生物の特徴や生物が潜んでいそうな場所を教えてくださいながら、一緒に採集をしていると、あっという間に採集の時間が終了しました。採集後、山川学芸員や学生ボランティアの方に、分類ごとに、採集した生物の名前や特徴、分布域が変化しているカニの話などの解説をして頂きました。観音崎でよく見られる生物の特徴や、海洋生物の中には、まだ分類がはっきりしていない動物がいることを知ることができました。

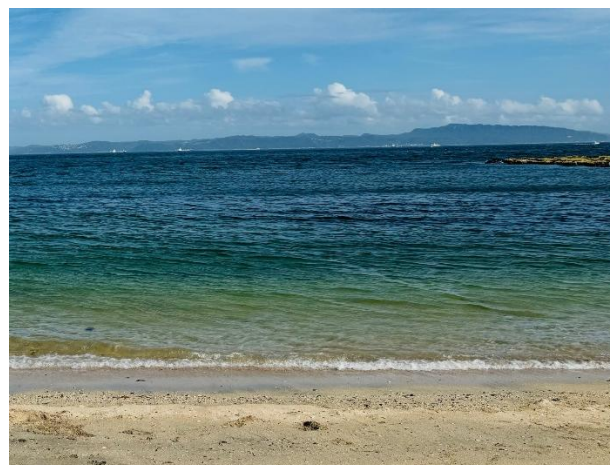
磯での採集・観察が終わって博物館に戻った後、学芸員の方から、「今日、採集をして観察した生物も、海水温の上昇による環境の変化などで10年後にはいなくなっている可能性がある。」というお話があり、生徒達は、環境の変化についても考えさせられました。

最後に、代表生徒2名から、「私は、生物が好きですが、地域社会に関心があり文系の進路を希望しています。海的环境も環境保全という観点で、地域社会と関わっているので、今日は、とても良い経験になりました。」「私は、海洋系の大学への進学を希望していて、大学に進学したら、今度は、学生ボランティアや調査のために、ここに戻って来ます。」と、博物館の方に、フィールドワークのお礼と今後の抱負を伝えました。

今回のフィールドワークでは、専門知識の習得もちろん大切ですが、文系・理系に関わらず、実際に参加して体験・経験をしてみることの重要性を再確認することができました。今後も、将来の進路希望にとられすぎず幅広く生徒が参加することができるフィールドワークを実施していきます。今回のフィールドワークの結果は、後日、何種類の動物門の生物を観察することができたのかまとめる予定です。



山川学芸員からのお話



観音崎の海(海の向こうには房総半島)



観音崎自然博物館の前で集合写真